180. 大腸X線検査に於ける前処置法の検討

The study on the Effect of the preparation of the Barium Enema

医療法人 大医会 日進おりど病院放射線科 ○深見八束・ 安井信二・

Yatsuka Fukami Shinji Yasui

山下孝 ・ 毛受孝夫 ・ 北條裕人

Takashi Yamashita Menjo Takao Hiroto Houjyo

【目的】大腸X線検査は撮影技術もさることながら前処置の成否が重要となる。今回、精度向上をめざし前処置法を検討した。【対象及び方法】大腸X線検査400例を3群の前処置法に分けた。I群(表1)は、従来のBrown変法で280例に施行した。II群(表2)は、経口の腸管洗浄液PEG-ELS(以下PEG)を用い40例に施行した。III群(表3)は、Brown変法に経口の腸管洗浄液マグコロールPを併用し80例に施行した。写真上での腸管洗浄効果の判定は、肛側結腸と深部結腸において固形残渣物の程度、液体残渣物の程度、coating評価とし3段階評価した。なお、各群間の推計学的な検定には χ^2 検定を用い、危険率を5%未満とした。【成績】①固形残渣物の程度(図1) excellentにおいては、肛側結腸で3方法間に有意差は認められなかったが、深部結腸でIII群82%を占めたのに対し、I群53%・II群50%と有意に劣った。②液体残渣物の程度(図2) 肛側結腸では、excellentがI群76%・III群70%で有意差は認められなかったが、II群48%と有意に劣った。また、深部結腸のpoorも同様II群が有意に劣った。③coating評価(図3) 肛側結腸では、excellentがIII群で92%に対し、I群71%・II群53%と有意に劣った。また、深部結腸のpoorはIII群4%に対し、I群24%・II群29%を占め有意に劣った。【考案】III群は肛側結腸で92%のfine network patternを得、深部結腸においては診断に支障ありを4%にとどめた。これは、前々日までほとんどの患者が普通食なので、それを900mlのマグコロールP等張液で洗い流し排泄させたことにより、前日の低残渣食3食が有効となったと考えられる。図4は、I群による写真である。肛側結腸は良いが、深部結腸に残渣物が認められる。図5は、II群による写真である。深部結腸に液体残渣物と気泡が認められる。多量のバリウムで気泡の移動を試みたが難しいものがあつた。図6・7は、III群による写真である。図6ではRSに2型大腸癌が認められる。stenosisよりoral sideに固形及び液体残渣物は認められず、全結腸にfine network patternが描出されている。しかし、検査前日就寝前に服用させた錠剤(センノサイド)が図7(左写真)の如く5%の割合で腸管に浮遊するという問題点を残した。そこで、新たに50例にセンノサイドの服用をやめ、液体接触性下剤ラキソベロンを服用させた。その結果、問題点は解消し、深部結腸のcoating評価におけるexcellentつまりfine network pattern描出を52%から60%に引き上げることができた。【まとめ】我々が、今回考案したマグコロールP等張液を前々日夜に服用させたIII群前処置法で肛側及び深部結腸において良好な前処置効果が得られた。また、今後更にラキソベロンへの変更について例数を増やし検討したいと考える。

表1 I群前処置

【検査前日】

朝食前低残渣食摂取

↓

昼食前低残渣食摂取

↓

夕食前低残渣食摂取

↓

20時、マグコロール250ml1本服用

↓

21時、センノサイド2錠服用

表2 II群前処置

【検査前日】

朝食前低残渣食摂取

↓

昼食前低残渣食摂取

↓

15時、PEG2000ml1回服用

↓

1000ml/hを目安に

↓

夕食-朝食

表3 III群前処置

【検査前4日】

20時、マグコロールP1包900ml等張液服用

↓

【検査前日】

朝食前低残渣食摂取

↓

昼食前低残渣食摂取

↓

夕食前低残渣食摂取

↓

20時、マグコロールP1包200ml水溶液服用

↓

22時、センノサイド2錠服用

固形残渣物の程度(%)

液体残渣物の程度(%)

Coating 評価 (%)

図4

図5

図6

図7

excellent:ほとんど認めない
good:中量認め
(5割以内)
poor:多量認め
(5割以上)

図1 固形残渣物の程度(%)

excellent:ほとんど認めない
good:少量認め
poor:多量認め

図2 液体残渣物の程度(%)

excellent:良好
fine network pattern描出
good:診断可能
poor:診断に支障あり

図3 coating評価(%)